

就任のご挨拶 新理事長 生越照幸

この度、前理事長である清水新二先生の後任として、NPO 法人京都自死・自殺相談センターの理事長を拝命しました生越(おごし)照幸と申します。

私は、大阪弁護士会に所属する弁護士であり、自死遺族支援弁護団の事務局長を務めていますので、自死自殺に法的に関わって来たといえます。

しかし、自死自殺に法的に関わることの限界を日々痛感しています。

たしかに、法的な解決によって、少なくとも金銭的な悩みを解決することはできます。

もっとも、金銭的な解決は、生きることの苦しみや辛さの解決に直結する訳ではありません。むしろ金銭的に安定したとしても、生きることの苦しみや辛さが残ることの方が多いように感じます。

このことは、医療、心理、行政など、専門職による支援にも共通していると思います。例えば、薬を使ってうつ病等の症状が緩和できたとしても、生きることの苦しみや辛さを完全に取り除くことはできないでしょう。

これに対して、同センターは、設立以降一貫して、電話相談、メール相談、おでんの会などの活動を通じ、生きることの辛さや苦しみに真剣に向き合って受け止め、そのふれ合いの中で生じる暖かさを大切にしてきました。

このような同センターの想いや活動は、効率化やマニュアル化が進行する社会の動きとは真逆の動きかも知れません。しかし、真逆であるからこそ、同センターの想いや活動が、この社会において非常に大切な意味を持つと思います。

今後も、同センターは、生きることの苦しみや辛さと向き合うための活動を続けて参ります。そして、私は、微力ですが、理事長として、現場のスタッフの方々が活動を行いやすい環境を、可能な限り広げていきたいと考えています。

Sotto レビュー

『ことばの向こうがわ —震災の影 仮設の声—』

安部智海著 (法蔵館)2017



宮城県、岩手県における仮設住宅居室訪問活動の記録である。しかし単なる被災者生活の記録にとどまらず、同時にあるいはそれ以上に、訪問活動を通して体験した寄り添いの意味の開墾、深化の記録である。主に失敗や自省の具体的なエピソードを素材に、支援とは、寄り添うとは、言葉を受けとるとはどういうことなのかを問い続ける、支援の姿勢とこころのありようをことばの向こう側に求めようとする試みである。そしてその意味探求が、具体的な活動を通じて育まれていく様子が手触り豊かな感覚で読み取れる、世には埋もれた良書である。

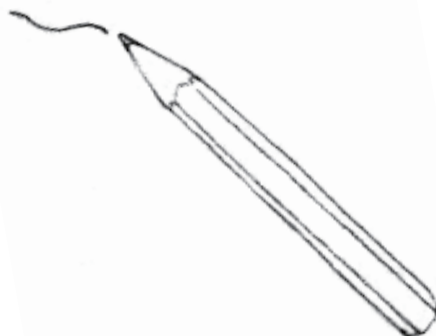
本書を通読して多くの読者が想うのは、著者がどれほど豊かにこころの畑を耕し続けたか、そしてその耕作結果がどれほど今後の生きざまに最良の糧、肥料になってゆくかということだろう。おそらく著者はこのことに気づいていないかもしれない。だがしかし、表面的な言葉や沈黙、あるいはため息、時には冗談や笑顔さえもが、その裏にあるこころ模様を直截に示すものでもないことへの気づきと、注意覚醒、そのうえでの傾聴と言葉のやり取りの重要性を図らずも如実に示してくれるのが本書である。

被災者に多く見られた“まだ自分はまだだから”との思いからくる自己抑制の言葉、姿勢の向こう側になにがあるのかを真摯に見つめようとする深みを感じ取ることができる。復興の景色を眺める被災者の傍らで、「もう少し一緒にその景色を眺めていたいと思った」とのさりげない一行は、この深みと拡がりを映して余りある。

平易で読みやすい文体もさることながら、それらをはるかに超えたその奥行きと拡がりに強い印象を刻まれた本書である。作家ではない仕方言葉、表現をよく耕して書き上げたプロセスは、おそらく著者のこころ模様も大いに耕したことだろう。言葉の向こう側に耳を研ぎすます震災仮設住宅居室訪問活動は同時にこころの耕し (cultivate) でもあり、私にとってはまさに文化 (culture) の源を知る貴重な機会ともなった。

(前理事長 清水新二)

8期生の声



Sottoの電話相談は、コーラーさんの「気持ち」に焦点を当てた対応が求められます。頭で考えて聴くのではなく、電話の向こうのコーラーさんの「感情」に焦点をあてた対応です。コーラーさんがいま抱えておられる、死にたい気持ちを聴かせていただくと、おのずと言葉も出てきます。けれど私は油断するとつい頭で考えてしまいます。ですから常にトレーニングが必要であると感じています。毎月の振り返りの時間がとても貴重です。(8期生 H.Y.)

一年間の研修を終え、先日ようやく正式な相談員として認定されました。最初と比べれば少しは変わったのかなとも思いますが、まだまだ迷いは尽きない日々です。私たちの活動に杓子定規なマニュアルはありません。ただ Sottoの活動理念「死にたいほど苦しい気持ちに寄り添う」を、軸に行動できているのかということが一番大事なことだと研修を通して学ばせていただきました。本当に相談者の方の立場に立てているだろうか、独りよがりになっていないだろうか、常に自分の行動と Sottoの理念を照らし合せ続けるということを、今後とも忘れずに活動に臨んでいきたいと思えます。(8期生 A.Y.)

最近、相談員として思うのが、「馴れは怖い」ということです。何度か電話を受けていると、「またあの人が」「この人はこういうタイプの人か」と思ってしまいがちなのです。これではいけない。一期一会という言葉をもち出すまでもありません。どんな時でも胸襟を開いてコーラーの方々の気持ちに触れることができるよう、努力を続けていきたいと考えています。(8期生 T.K.)

今月のことば

自然に向へ

人間を思ふよりも生きたものを先に思へ

自己の大国に主たれ

(高村光太郎「声」より)

活動報告

- 7月期電話相談件数…198件（無言35件、よりそいホットライン担当55件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修6月15日5名
- メール相談件数…受信113件、送信91件
- メール相談委員会…委員会会議7月28日7名
- 居場所づくり委員会 …Sotto おでんの会 “研究の場” 7月5日10名（参加者11名）
委員会会議7月12日5名
- グリーフサポート委員会 …Sotto 語りあう会7月13日7名（参加者3名）
- 研修委員会 … 委員会会議7月24日7名
- 広報・発信委員会 … 委員会会議7月19日6名

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2017年7月1日～31日 受付分

ご支援ご協力ありがとうございます。

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

荻野昭裕

竹本了悟

京都市・一念寺

野中典恵

寄藤信子

さいたま市・最勝寺

加藤大

佐喜正広

和歌山市・宗善寺

山河彰子

長崎県南松浦郡・得雄寺

北海道空知郡・聞信寺（門上誓明）

大阪市・榮照寺

福岡県粕屋郡・信行寺

花木真樹

北海道・永楽寺（永江竜心）

山田宏晁

伊佐市・覺誓寺

飯塚市・正円寺（高石彰也）

大津市・福賢寺（三上章道）

原智精

深井恵純

三留紀子

茨木市・善照寺（岡玲）

株式会社福寿園

初田拓馬

吉田郁子

奥村知香

永江武雄

長門市・法林寺（蘭純精）

匿名希望 4名

Sotto コメント

マクワウリをご存知ですか？あっさりした甘みと香りのあるウリです。地味な味ですが、子どものころからメロンよりも好きでした。意外にも栄養価が高くカルシウムやビタミンCも豊富だそうです。(N.Y.)

発行 2017年8月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92

TEL 075-365-1600

URL <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp